

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00646

研究課題名(和文)万葉集仙覚校訂本の総合的研究 成立過程・校訂の方法・享受の様相の解明

研究課題名(英文)Comprehensive Study of the Sengaku collated edition of the Manyoshu

研究代表者

田中 大士(TANAKA, Hiroshi)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：40722137

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,890,000円

研究成果の概要(和文)：われわれは、「万葉集の仙覚校訂本の総合的な研究」において、次の4つの成果を得た。

第一次校訂本である寛元本の伝本調査と分析によって、寛元本の現在の状況を示した。仙覚校訂を受け継いできた宮廷で作られた「禁裏御本」について、それを復元する方法を発見した。従来、研究が少なかった室町時代の万葉集の受容について、新しい知見を得た。「平仮名傍訓本群」は江戸時代に多くの写本が作られた。われわれはその多くの写本の調査を行って、数種類の新しく発見した写本を紹介した。この4つの成果は、互いに深い関係を持っていて、「仙覚校訂本」の本質を解明するための基礎作業である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『万葉集』は、我が国最古の和歌集であり、近代まで続く和歌の歴史において、つねに古典として尊重され続けられて来た。しかし、『万葉集』は、本来漢字だけで表記され、そこに平仮名/片仮名の訓が付されることで読まれてきた歴史がある。その訓読の長年にわたる複雑な歴史を統合し、後世に引き継いだのが鎌倉時代の仙覚である。仙覚の精密な校訂とその結果残された校訂本諸本がなければ、『万葉集』は現在のように、原典に近い形で伝わってくることはなかったと考えられる。本研究は、この仙覚校訂本の成り立ち、又、享受について、伝本の水準から洗い直し、仙覚校訂本の重要性を解説しようとした。

研究成果の概要(英文)：In our "Comprehensive Study of the Sengaku collated edition of the Manyoshu" we obtained the following four results.(1) Through the research and analysis of the manuscripts, we manifested the current states of the Kangen edition ;its are the first edition of Sengaku collated.(2) We found a way to restore the "Kinri-gyohon";the books handed down to the Imperial Court that had inherited the Sengaku collated edition.(3) We obtained new knowledge about the reception of the in the Muromachi period, which had been poorly researched in the past.(4) Many of the "Hiragana-boukun-bon;the texts wrote how to read to the right of the kanji in hiragana, were created in the Edo period. We examined many of these manuscripts and introduced several newly discovered.These four achievements are deeply related to each other and are the basic work to study the essence of the Sengaku collated edition of the Manyoshu.

研究分野：日本文学

キーワード：万葉集 仙覚校訂本 万葉集享受 歌本文と訓 伝本調査 仙覚の思想

1. 研究開始当初の背景

万葉集の仙覚校訂本は、現在の万葉集テキストの底本に使用され、大きな信頼が寄せられている。しかし、仙覚校訂本の中でも、その最善本とされる西本願寺本のみが尊重され、その本が作られる前段階の過程は十分に明らかにされておらず、西本願寺本と並んで流布されたと考えられる禁裏御本などの他本の解明はほとんど等閑に付されていると言ってよい。また、仙覚校訂本が出来上がってから、どのように享受の様相が展開されていったかの究明も行われていない。さらには、江戸期に国学の隆盛によって、万葉集研究が飛躍的に進展するが、その前夜とも言える時期の江戸初期の万葉集享受の実態もほとんど研究がない。ようするに、万葉集仙覚校訂本は、その頂点とされる西本願寺本への絶大な信頼のみが存し、その実態の解明や流布の様相については極めて研究が薄いという状況である。たしかに、西本願寺本は、仙覚校訂本の精髓と言ってよいが、それが出来上がるまでには複雑な過程が存するし、室町時代などの後世に西本願寺本のような仙覚の考えが凝縮した本だけが尊重されていたわけではない。そのような矛盾に満ちた仙覚校訂本の享受の様相をまるごと把握することが求められる。

2. 研究の目的

万葉集が、古代から近代に至るまで一貫して重要な古典として重用されてきたことに、仙覚校訂本が果たしてきた役割について明らかにする。万葉集は、平仮名も片仮名もない時代に漢字だけで表記された特異な表記形態を持つ。万葉集の伝来には、この漢字本文と仮名による訓との関係が深く関わっている。その、万葉集の漢字本文を読み、正確な訓を付すという使命、誰よりも自覚的に行った人物が、鎌倉時代の仙覚という人物である。仙覚の万葉集の校訂の作業をたどってゆくと、仙覚以前の万葉集の読み方や仙覚以降の仙覚校訂本の受容における仙覚理解のゆがみが明らかになる。仙覚校訂本の探求こそ、万葉集という異質の和歌集の本質を知る大きな手がかりとなる。

3. 研究の方法

その目的を果たすために、次の四つの点から明らかにしようとする。

(1) 仙覚校訂本の成り立ちについて、諸伝本の克明な研究から明らかにする。仙覚校訂本は、おおむね寛元本 文永三年本 文永十年本の三段階で改訂されていたと考えられる。しかし、仙覚が書き残した奥書の記述などから、もっと細かな変転の歴史があったと推測される。その進展の様相を明らかにする。

(2) 仙覚の注釈書である『万葉集註釈』と仙覚校訂本の内容を突き合わせて、仙覚校訂本の校訂の方法を明らかにする。仙覚校訂本が、校訂本として精密な内容であることは経験則として知られてはいた。その内容の精密な点を、仙覚の註釈と引き比べることで、より客観的に証明する。

(3) これまで研究が成されていなかった室町時代の万葉集研究の実態を明らかにすることで、仙覚校訂本生成から江戸期までの仙覚校訂本の享受の実態を明らかにする。とくに、従来研究が不十分であった禁裏御本の解明を進め、その解明の結果と室町時代の万葉集享受の実態とを突き合わせながら、進めてゆく。

(4) 江戸初期の万葉集の版本流布の時期に作られていた平仮名傍訓本諸本を調査し、活字無訓本、活字付訓本、寛永版本(製版本)という版本展開の実態を探る。全国にある平仮名傍訓本の調査をすすめ、いままで十把一絡げに扱われていた伝本群に新たな研究の光を当てる。

4. 研究成果

(1) 非仙覚本・仙覚校訂本以外の訓の発見 本研究では、仙覚校訂本の底本と仙覚校訂本との関係を研究していたが、この両者には補完関係が見られ、仙覚校訂本で新たに付訓したとされる、「新点」の歌には、非仙覚本には訓が無いことがわかっている。ところが、万葉集の伝本以外の資料である『歌枕名寄』(鎌倉時代)には、この万葉集伝本以外の訓があることがわかってきた。現存する万葉集伝本とは異なった訓群の発見である。これは、万葉集の訓読史における大きな発見と言える。

(2) 仙覚寛元本系統の伝本調査の進捗

仙覚校訂本は、仙覚寛元本— 仙覚文永三年本— 仙覚文永十年本 という形で校訂作業が進められている。このうちの寛元本は、その系統の伝本が少なく、従来、細井本、神宮文庫本くらいしか十分な調査が行われていなかった。しかし、今回、河野美術館蔵本、学習院大学蔵本などにも調査が及び、現存する同系統の成り立ちが明確になった。とくに、巻4～6の取り合わせ本（別の系統が入り込んでいる部分）の実態が明らかになった。

（3）寛元本から文永三年本、文永十年本への展開の実態解明

仙覚校訂本は、上記の三段階で順に展開したものと考えられていた。しかし、本研究で、従来文永十年本とされていた金沢文庫本の実態を解明する過程で（金沢文庫本は、文永三年本であることが明らかになった）同じ文永三年本でも、伝本によって、より古い形態とより新しい形態を持つ本に分けられることが判明した。これは、従来知られている三段階の間にも、変容の段階があったことの証左と言える。

（4）禁裏御本の解明

仙覚校訂本の完成以降、仙覚寛元本と仙覚文永本とを合わせ写した禁裏御本という本が今川範政によって作られている。この本は、状況証拠からして、室町から江戸時代には盛んに流布していた本と考えられるが、現在その伝本は伝えられず、書入の形でしか伝わっていない。しかし、本研究では、巻二、三の二巻のみではあるが、禁裏御本の姿を伝える伝本（京都大学校語学国文学研究室蔵本）が見出され、その他の資料から、禁裏御本の実態が飛躍的に明らかになりつつある。一方、室町時代の万葉集関連歌書である『万葉集抜き書き』には、禁裏御本が元になったと思われる記述が見出され、当時の禁裏御本の享受の実態が明らかになりつつある。伝本の復元と享受の実態解明の2方面から従来不明だった禁裏御本の解明が進んでいる。

（5）江戸期平仮名傍訓本の解明

江戸期には、万葉集の版本を元にして、訓を片仮名から平仮名に変えた、量産された『万葉集写本群』がある。これらは、おしなべて同じ内容と考えられてきたが、元本が活字付訓本（古活字本）と寛永版本（製版本）との二つのグループに分けられることがわかってきた。これは、その享受の様相が不明とされてきた活字付訓本の享受を考える上で重要である。また、一連の平仮名傍訓本調査の過程で、同じ平仮名傍訓本でも、文永十年本を底本とする本（関西大学蔵）、行数の異なる本（成城大学蔵本）、平仮名書きの本（大妻女子大学蔵本）などの類本の報告が相次いでいる。従来、版本だけにしか目が行っていなかった江戸初期の万葉集の享受の実態が、大きな広がりを持つことが明らかになりつつある。

以上のような点で大きな成果が上がった。万葉集仙覚校訂本は、これまでに於いても、重要な存在であったが、先述のように、その焦点は、最善本である西本願寺本にのみ焦点が当てられ、その西本願寺本のような伝本が、どのような伝本を背景に持ち、いかなる思想のもと、また、どのような経緯で出来上がってきたかには興味が見向いていなかった。また、室町時代には、仙覚校訂本の神髄と言える西本願寺本ではなく、禁裏御本のような、思想的には仙覚の考えと相容れない伝本が流布していたことについては、多くの研究者が無自覚であったと考えられる。本研究は、このような仙覚校訂本享受の実態を、まず伝本の文献的な調査から開始し、広範な時代を扱いながら、多角的な視点で、あきらかにした。ことに室町時代の万葉集の研究は、従来他の時代と比べても振るわない面があったが、2023年度になり、和歌文学会の7月例会で、室町時代の万葉集関連歌書『かながき万葉集』が特別例会の題材に取り上げられるなど、大きく注目を浴びている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計39件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 古澤彩子	4. 巻 1
2. 論文標題 万葉集平仮名傍訓本底本別典拠一覧	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 万葉写本研究 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）18H0064「万葉集仙覚校訂本の総合的研究」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 45-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石真由香	4. 巻 1
2. 論文標題 『万葉集』禁裏御本巻二・巻三の対校表	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 万葉写本研究 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）18H0064「万葉集仙覚校訂本の総合的研究」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安井絢子	4. 巻 1
2. 論文標題 万葉集平仮名傍訓本・日本女子大学図書館蔵本と獨協大学図書館蔵本の付訓の特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 万葉写本研究 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）18H0064「万葉集仙覚校訂本の総合的研究」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲斐温子	4. 巻 1
2. 論文標題 三条西実隆『万葉一葉抄』研究の現在及び課題について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 万葉写本研究 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）18H0064「万葉集仙覚校訂本の総合的研究」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口百合子	4. 巻 1
2. 論文標題 『歌枕名寄』所収『万葉集』長歌について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 万葉写本研究 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)18H0064「万葉集仙覚校訂本の総合的研究」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 11-46
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新沢典子	4. 巻 1
2. 論文標題 万葉集仙覚元本に属する伝本とその系統	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 万葉写本研究 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)18H0064「万葉集仙覚校訂本の総合的研究」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石真由香	4. 巻 第42号
2. 論文標題 京都大学国語学国文学研究室蔵『万葉集』の系統	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学国語国文学	6. 最初と最後の頁 52-64
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 舟見一哉 松原哲子 徳植俊之 田中大士 佐々木孝浩 甲斐温子 古澤彩子 海野圭介	4. 巻 第43号
2. 論文標題 国文学研究資料館及び橘樹文庫蔵桐尾類切(桂様切)『万葉集』の高精細マイクロスコープによる紙面観察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国文学研究資料館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 第43号
2. 論文標題 桂様切(栴尾類切)万葉集の最新事情	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国文学研究資料館調査研究報告	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 第124号
2. 論文標題 〔名著探訪〕『校本万葉集』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和歌文学研究	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口百合子	4. 巻 第82号
2. 論文標題 明治大学図書館蔵毛利家旧蔵『歌枕名寄』にちて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 汲古	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 景井詳雅	4. 巻 第123号
2. 論文標題 非仙覚本の『万葉集』訓読の一樣相 参考資料としての古今和歌集	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和歌文学研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 125
2. 論文標題 類聚古集と広瀬本万葉集の共通の誤字	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上代文学	6. 最初と最後の頁 34-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 14
2. 論文標題 万葉集平仮名傍訓本断簡の性格	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学日本古典籍研究所年報	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 14
2. 論文標題 後京極様切万葉集の性格	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学日本古典籍研究所年報	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 231
2. 論文標題 金沢文庫本万葉集系統論序説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 萬葉	6. 最初と最後の頁 45-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲斐温子	4. 巻 第127号
2. 論文標題 『万葉集』における仙覚『万葉集註釈の受容』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上代文学	6. 最初と最後の頁 78-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乾善彦	4. 巻 3
2. 論文標題 関西大学図書館蔵契沖和歌資料二軸	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 なにわ大阪研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池原陽斎	4. 巻 60
2. 論文標題 平安時代前中期における「萬葉歌人」の像：赤人・有間皇子・石上乙麻呂を例に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代文学	6. 最初と最後の頁 85-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石真由香	4. 巻 60
2. 論文標題 中学校国語教科書における和歌教材を考える授業実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学紀要〔教育学部〕	6. 最初と最後の頁 104-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新沢典子	4. 巻 0
2. 論文標題 「つくまの紫」と「つくまえのみくり」 古今和歌六帖歌をめぐって (久保朝孝編『源氏物語を開く』2021年3月、武蔵野書院)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 久保朝孝編『源氏物語を開く』	6. 最初と最後の頁 6-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口百合子	4. 巻 第79号
2. 論文標題 国立歴史民俗博物館蔵田中讓氏旧蔵『歌枕名寄』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 汲古	6. 最初と最後の頁 7-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲斐温子	4. 巻 121
2. 論文標題 西本願寺本『万葉集』の貼紙と『万葉類葉抄』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌文学研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乾善彦	4. 巻 15
2. 論文標題 契沖との宣長 それぞれのその後	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近世萬葉学 契沖を中心に 報告集	6. 最初と最後の頁 85-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乾善彦	4. 巻 98
2. 論文標題 万葉集と「仮名」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美夫君志	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口百合子	4. 巻 76
2. 論文標題 内藤くすり博物館大同薬室文庫蔵『歌枕名寄』 流布本系丙類について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 汲古	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石真由香	4. 巻 89-3
2. 論文標題 『万葉集』禁裏御本のすがた 陽明文庫所蔵「古活字本万葉集」書入による復元の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 25-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池原陽斎	4. 巻 96-11
2. 論文標題 『拾遺和歌集』の萬葉歌出典小考：人麻呂歌、とくにその長歌を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 77-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 96-11
2. 論文標題 万葉集仙覚校訂本と次点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 17
2. 論文標題 新たな万葉集伝本群の発見-万葉集平仮名傍訓本-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 万葉古代学研究年報	6. 最初と最後の頁 121-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中大士	4. 巻 38
2. 論文標題 柱様切(栴尾切)万葉集の再検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『万葉集研究』	6. 最初と最後の頁 209-240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石真由香	4. 巻 38
2. 論文標題 京都大学国語学国文学研究室蔵『万葉集』について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岐阜聖徳学園大学国語国文学	6. 最初と最後の頁 45-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石真由香	4. 巻 17
2. 論文標題 禁裏御本『万葉集』における今川範政 中世から近世への万葉集受容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 万葉古代学研究年報	6. 最初と最後の頁 209-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池原陽斎	4. 巻 17
2. 論文標題 『古今和歌六帖』所収萬葉歌の性格：類聚古集「無訓歌」からの検証	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 万葉古代学研究年報	6. 最初と最後の頁 141-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池原陽斎	4. 巻 163
2. 論文標題 『古今和歌六帖』の「萬葉一覧歌人」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女子大國文	6. 最初と最後の頁 79-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池原陽斎	4. 巻 18
2. 論文標題 『古今和歌六帖』古筆切本文・写本本文対校稿：附古筆切本文一覧表	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学文化	6. 最初と最後の頁 22-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乾善彦	4. 巻 17
2. 論文標題 万葉集をよんだ人々・人々のよんだ万葉集 付、万葉文化館蔵万葉集および万葉集関連書籍	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 万葉古代学研究年報	6. 最初と最後の頁 111-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口百合子	4. 巻 121
2. 論文標題 万葉古代学研究年報	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上代文学	6. 最初と最後の頁 29-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 樋口百合子	4. 巻 17
2. 論文標題 『夫木和歌抄』所収萬葉歌について 人丸関係の短歌を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 万葉古代学研究年報	6. 最初と最後の頁 155-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 樋口百合子
2. 発表標題 『歌枕名寄』所収万葉歌の独自左注について 中世万葉集の受容と再編
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新沢典子
2. 発表標題 神宮文庫本の文永本的性格について 卷四～六の本文と訓をめぐって
3. 学会等名 第48回万葉語学文学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 景井詳雅
2. 発表標題 「たまゆら」の変容 万葉歌享受の視点から
3. 学会等名 上代文学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新沢典子
2. 発表標題 和歌における借訓・義訓
3. 学会等名 上代文学会秋季大会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 池原陽斉
2. 発表標題 二類本人麿集考 非万葉歌から見る『拾遺集』時代の「人麻呂」像
3. 学会等名 2021年度美夫君志会9月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新沢典子
2. 発表標題 万葉集仙覚寛元本系の伝本について
3. 学会等名 和歌文学会 5 月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新沢典子
2. 発表標題 『万葉代匠記』に見える音韻相通と仙覚からの影響
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大石真由香
2. 発表標題 『万葉集』禁裏御本の復元をめぐる
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 甲斐温子
2. 発表標題 中御門宣胤の『万葉集』研究 『万葉類葉抄』における付訓の様相
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中大士
2. 発表標題 仙覚訓を持つ万葉集片仮名訓本の性格 後京極様切の場合
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樋口百合子
2. 発表標題 国立歴史民俗博物館蔵田中讓氏旧蔵『歌枕名寄』について
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中大士
2. 発表標題 万葉集平仮名傍訓本切（鎌倉時代書写）の性格
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 乾善彦
2. 発表標題 今年度の成果
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古澤彩子
2. 発表標題 万葉集平仮名傍訓本諸本の様相
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 甲斐温子
2. 発表標題 『万葉類葉抄』における仙覚『万葉集註釈』の受容
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大石真由香
2. 発表標題 京都大学国語学国文学研究室蔵『万葉集』と陽明文庫蔵「古活字本万葉集」
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新沢典子
2. 発表標題 仙覚寛元本諸本の関係について
3. 学会等名 科研費研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樋口百合子
2. 発表標題 『歌枕名寄』の依拠した『萬葉集』
3. 学会等名 萬葉語学文学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樋口百合子
2. 発表標題 宮内庁書陵部蔵『萬葉』について 卷七錯簡
3. 学会等名 和歌文学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池原陽斎
2. 発表標題 『古今和歌六帖』の萬葉歌の排列：『萬葉集』からの採取をめぐって
3. 学会等名 和歌文学会平成31年度関西12月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 景井詳雅
2. 発表標題 平安時代の『万葉集』訓読の一樣相 - 『古今和歌集』の万葉関連歌から -
3. 学会等名 和歌文学会平成31年度関西12月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中大士
2. 発表標題 万葉集仙覚校訂本と次点
3. 学会等名 和歌文学会6月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中大士
2. 発表標題 「令和」と紀州本万葉集
3. 学会等名 昭和美術館改元記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 乾善彦
2. 発表標題 契沖と宣長 それぞれのその後
3. 学会等名 若手研究者支援プログラム（奈良女子大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 乾善彦
2. 発表標題 万葉集をよんだ人々・人々のよんだ万葉集
3. 学会等名 万葉文化館委託共同研究成果報告（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中大士
2. 発表標題 新たな万葉集伝本群の発見 万葉集平仮名傍訓本
3. 学会等名 万葉文化館委託共同研究成果報告（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池原陽斎
2. 発表標題 『古今和歌六帖』の万葉歌 平仮名で書かれた万葉歌
3. 学会等名 万葉文化館委託共同研究成果報告（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大石真由香
2. 発表標題 禁裏御本『万葉集』における今川範政
3. 学会等名 万葉文化館委託共同研究成果報告（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大石真由香
2. 発表標題 京都大学国語国文学研究室蔵『万葉集』について
3. 学会等名 上代文学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池原陽斎
2. 発表標題 『古今和歌六帖』所収「人麻呂歌集略体歌」の性格
3. 学会等名 上代文学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 田中大士	4. 発行年 2020年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 180
3. 書名 衝撃の『万葉集』伝本出現	

1. 著者名 田中大士	4. 発行年 2021年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 84
3. 書名 春日懐紙の書誌学	

1. 著者名 新沢典子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 244
3. 書名 『万葉をヨム』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	乾 善彦 (INUI Yoshihiko) (30193569)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	大石 真由香 (OOISHI Mayuka) (40624060)	岐阜聖徳学園大学・教育学部・講師 (33704)	
研究分担者	安井 絢子 (YASUI Ayako) (50881108)	有明工業高等専門学校・一般教育科・助教 (57102)	
研究分担者	杉山 典子(新沢典子) (SUGIYAMA Noriko) (60454162)	鶴見大学・文学部・教授 (32710)	
研究分担者	池原 陽斉 (IKEHARA Akiyoshi) (70722859)	京都女子大学・文学部・講師 (34305)	
研究分担者	景井 詳雅 (KAGEI Yoshimasa) (80791508)	京都府立大学・文学部・研究員 (24302)	
研究分担者	樋口 百合子 (HIGUTI Yuriko) (90625493)	奈良女子大学・大和・紀伊半島学研究所・協力研究員 (14602)	
研究分担者	城崎 陽子 (SHIROSAKI Youko) (20384000)	獨協大学・国際教養学部・特任教授 (32406)	削除：2019年7月31日

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	甲斐 温子 (KAI Atuko)		
研究協力者	古澤 彩子 (HURUSAWA Ayako)		
研究協力者	茂野 智大 (SHIGENO Tomohiro)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関